

平成29年度
岡山県内におけるカワウねぐら調査報告書
(冬期調査)



岡山市南区 児島湾の高島カワウねぐらの状況

日本野鳥の会岡山県支部

平成30年 1月

岡山県内における冬期のカワウのねぐら利用個体数調査

I. 目的

カワウは、近年個体数・分布域が増加・拡大し、採食地である河川・湖沼において人間活動との軋轢が増加している。しかし、過去において著しく生息数が減少し絶滅が危惧されたこともあることから、生息数調査及び繁殖状況調査、行動実態調査等を行い、県下の生息実態を明らかにして人との共生を図る基礎資料とする。

II. 調査方法

1. 調査時期

カワウの生息状況のモニタリングのため、ねぐらやコロニーにおける個体数調査を行う。本調査を行うに当たり、11月に会員へのアンケートと事前調査によりカワウがねぐらとしている場所を特定しておいて冬期のカワウねぐら調査を12月から1月の間に調査を行った。

2. 調査場所

1) 河川流域において、コロニーやねぐらが存在する場所：

① ねぐら個体数調査

ねぐらにおける個体数の調査は、最も基本的で重要な調査である。カワウは多くの場合は水辺近くの林や竹林をねぐらとして利用する。事前に調査をしたねぐらおよびねぐらとして利用するコロニーにおいて、日没前の16時ごろから、調査開始時にすでにねぐらに入っているカワウの個体数をカウントしておく。その後、ねぐらを出入りするカワウの個体数を方向別に時間と共に記録する。12月から1月のカワウがねぐらに帰還する時間帯は、日の入りから30分前後を目安として、17時ごろまでとする。調査の初めに居た個体数に出入りした数を足し引きして、最終的にその日にねぐらをとったカワウの数とした。

III. 調査結果

県内で冬期に生息するカワウの数は、3,949羽であった。その内、吉井川水系で823羽、児島湾を含む旭川水系で2,119羽、高梁川水系で633羽、その他海上における島部で374羽であった。

11月の事前調査では、41ヶ所にねぐらを確認していたが、12月の本調査ではその中の16ヶ所でねぐら入りする個体を確認できなかった場所があった。これは、夏ねぐらとして少数の個体が利用していた場所と夏期繁殖期にコロニーと利用していたがねぐらとしては利用せず、本格的冬季になってより安全な多数が集まる冬ねぐらの方へ移動したものと考えられる。

カワウねぐらの確認場所とカウント羽数を表-1に示す。

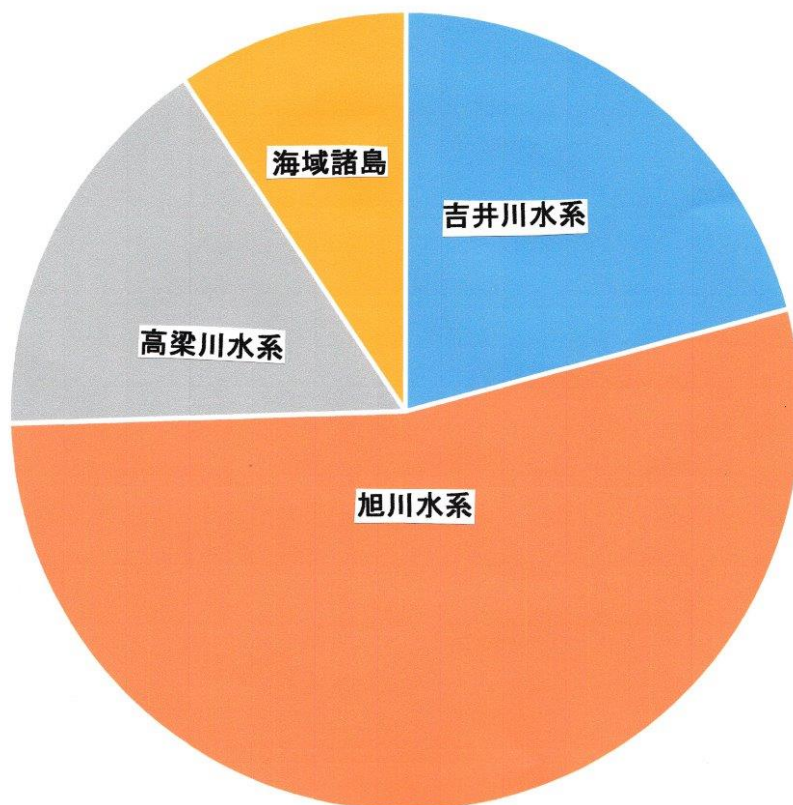
表一1 平成29年度 冬期ねぐらにおけるカワウ生息数調査

No.	河川名	ねぐら場所	個体数	状況
1	吉井川	岡山市東区川口 中州 観音院対岸	202	コロニー
2	"	岡山市東区百枝月 豆田対岸	314	冬ねぐら
3	"	赤磐市熊山勢力 山陽道橋下流	41	冬ねぐら
4	金剛川	和気町藤野	56	コロニー
5	吉井川	和気町佐伯苦木	0	冬ねぐら
6	"	和気町佐伯塩田 備作大橋下流	0	コロニー
7	"	和気町佐伯塩田 周匝橋下流	36	冬ねぐら
8	"	津山市瓜生原 押淵上バスで停対岸	0	ねぐら
9	"	津山市日上	45	ねぐら
10	"	津山市宮尾 新錦橋上流	86	冬ねぐら
11	広谷新池	津山市日本原 広谷新池	0	コロニー
12	坂見面池	津山市桑下 坂見面池	0	コロニー
13	吉野川	美作市青野 尾谷橋下流	43	コロニー
14	"	美作市岩辺	0	コロニー
15	切池	勝央町福吉 切池	0	コロニー
		吉井川 水系 小計	823	
1	児島湾	岡山市南区宮浦 高島	1,382	冬ねぐら
2	旭川	岡山市中区中原 三野公園前	452	コロニー
3	"	岡山市北区御津 中牧湯須	19	冬ねぐら
4	"	岡山市北区御津 野々口	0	コロニー
5	"	岡山市北区御津川高	5	ねぐら
6	"	岡山市北区建部町土師方	0	夏ねぐら
7	"	岡山市北区建部町吉田 中吉橋上流	109	コロニー
8	旭川ダム	美咲町栃原 旭川ダム湖 浮桙上	95	ねぐら
9	旭川ダム	美咲町西堺和 江与味橋上流	0	コロニー
10	"	真庭市落合町法界寺	43	コロニー
11	砂川	岡山市東区瀬戸町笹岡	14	冬ねぐら
		旭川 水系 小計	2,119	
1	遊水池	倉敷市水島川崎通り 汐入川遊水池	207	コロニー
2	高梁川	倉敷市船穂町船穂 霞橋上流の中洲 鉄塔2基	0	ねぐら
3	"	倉敷市酒津 清音古地の対岸	158	ねぐら
4	"	総社市福谷	67	ねぐら
5	"	総社市槻 槻橋上流 山の林	0	コロニー
6	"	高梁市玉川町玉	34	冬ねぐら
7	"	高梁市中井町西方	0	コロニー
8	成羽ダム	高梁市備中町平川 新成羽川ダム湖	0	ねぐら
9	河本ダム	新見市哲多町宮河内 河本ダム	54	ねぐら
10	小田川	井原市木之子町	78	コロニー
11	星田池	井原市美星町星田 星田池	35	ねぐら
		高梁川 水系 小計	633	
1	片上湾	備前市 片上湾 前島	0	コロニー
2	牛窓町	瀬戸内市牛窓町鹿忍	187	コロニー
3	千手大池	岡山市東区千手 千手大池	0	コロニー
4	水島灘	倉敷市児島通生 葛島	187	コロニー
		海岸域および河川以外の場所 小計	374	
		県内41か所 冬期カワウ生息数 総計	3,949	

各河川における出現割合を図－1に示す。

図－1 各河川における出現割合

カワウねぐら利用状況図



各割合（県内の冬期カワウ全生息数：3,949羽）

吉井川水系 : 20.8% (823羽)

旭川水系 : 53.7% (2,119羽)

高梁川水系 : 16.0% (633羽)

海域諸島部 : 9.5% (374羽)

IV. まとめ

平成29年度、冬期において岡山県内に生息するカワウの個体数を夕刻に「ねぐら」入りする羽数をカウントして調査した結果、総数 3,949 羽を数えました。

今年度、繁殖後の夏期調査でカウントした羽数は、2,743 羽でしたから、1,206 羽増加していたことになる。この増加羽数個体は、冬期に県外から渡来したものと考えられる。

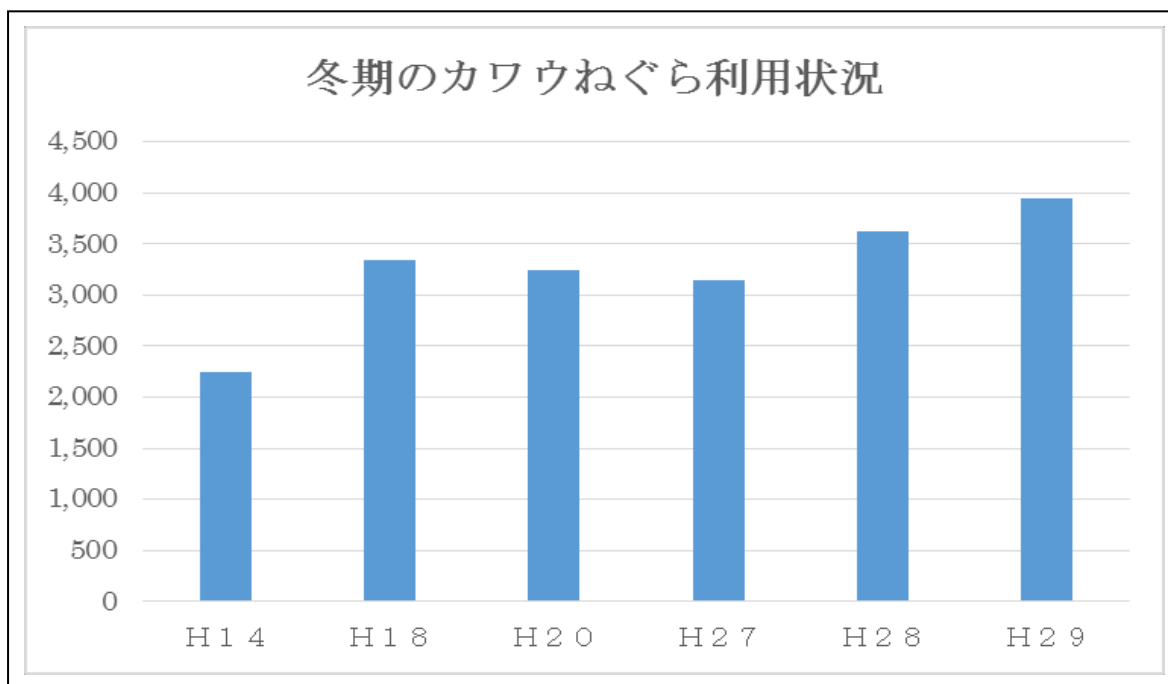
今回確認された冬期羽数は以前の調査と比較すると表-2 となる

表-2

調査年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成20年度	平成18年度	平成14年度
確認羽数	3,949	3,629	3,140	3,245	3,344	2,251

の結果からここ10年の間は、3千台の増減であるが、本年度の調査では4千に近い羽数を数えるに至っている。

図-3 経年変化図



特徴的なのは、夏期コロニーでの冬期ねぐら利用は少数であった。冬期ねぐらとして岡山県最大の羽数を誇るのは、児島湾内にある高島の冬ねぐらで 1,382 羽であった。

他、大きなねぐらは、吉井川の岡山市東区川口の中洲 202 羽、岡山市東区百枝月 314 羽、旭川の岡山市中区中原中洲 452 羽、高梁川河口部の倉敷市水島川崎通り汐入川遊水池 207 羽であった。これらのねぐらは皆河川河口部に近く、海に出やすい位置関係にあるねぐらであった。また、海岸域の備前市片上湾の前島のねぐら、および岡山市東区千手の千手大池等はねぐらの樹木伐採等が行われていて、追い払い等が行われた様子であった。

また、すでにこの冬期において繁殖行動に入っているコロニーが県南部で3ヶ所あった。岡山市東区川口の吉井川中洲では92巣が抱卵・育雛中、瀬戸内市牛窓町鹿忍では32巣が抱卵中、倉敷市児島通生の葛島では10巣で抱卵・育雛中であった。